

## 歴史ある姫路

姫路藩の大名に仕えた武士は城を囲む要塞地域に居住していた。堀と門で商人や手工業者が住む外部の街から分けられた侍たちのエリアは、この要塞を守る重要な防御線だった。

この地図は 1750 年代に、酒井家（1749–1868）の統治下にあった姫路の中心部を描いている。内堀に囲まれたお城がベージュ色で描かれている。薄いピンク色の部分は侍屋敷で、まとめ役の侍の名前がそれぞれの土地に記載してある。位の高い家老は城郭の南、大手門の近くの大きな屋敷に住んでいた。城の東側、濃いピンク色の小さ目の区画は大名自身の居住区である。侍屋敷の周りに中堀があり、そのまわりには城下町へと続く多数の門が設けられていた。

姫路城の侍屋敷は明治時代(1868-1912)にすべて取り壊され、政府は城とその周辺地域を陸軍基地に転用した。第 2 次大戦後に市中心部である城の北東部分は姫路の行政の中心地となった。中堀の南側の部分は埋められたが、他の所では堀や石垣がかつての城下町の配置を反映している。